

OISA NEWS

OITA
INFORMATION
SERVICE INDUSTRY
ASSOCIATION

2024. 3

84

発行：大分県情報サービス産業協会
会長 加藤 健
<http://www.oisa.jp>
編集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL (097) 537-5918
FAX (097) 534-4545
印刷：株式会社佐伯コミュニケーションズ

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

2024年 新年例会開催・会長挨拶	2
特別講演会	3
2023年度 OISA視察研修旅行	4
第29回OISAボウリング大会開催	
第30回OISA研修の実施	5
第35回OISA技術交流会開催	6
第32回サウンズコンテスト	7
社会貢献活動参加・新任役員紹介	8



協会Webサイトも
ぜひご覧ください

白杵城 (白杵市)

2024年

大分県情報サービス産業協会 新年例会開催

2024年の新年例会が、1月17日(水)に大分市のソレイユにて開催されました。

加藤健会長の新年の挨拶に引き続き、大分市副市長 佐藤耕三様、九州経済産業局地域経済情報政策課デジタル経済室 室長 春口浩子様、大分県商工観光労働部 理事 高野信一様からのご挨拶を頂戴し、特別講演へと移りました。本年は、元ラグビー日本代表 大野 均様に「弱小チームからワールドカップで勝つまで」という演題でご講演をいただきました。



加藤 健 会長

会長挨拶

皆様、新年おめでとうございます。私は昨年10月より大分県情報サービス産業協会の会長を仰せつかっております加藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は新年例会に年明けのお忙しい中、多数の方にご出席いただき誠にありがとうございます。ご来賓として大分市佐藤副市長様、九州経済産業局春口室長様、大分県商工観光労働部高野理事様にもご出席賜り誠にありがとうございます。

さて、昨年5月に新型コロナが5類に移行、3年以上にわたった感染対策から平穏が戻ってきました。しかし、今年元日には能登半島地震が発生し、羽田空港では航空機事故発生と大変痛ましい年明けになってしまいました。一方、世界ではロシアによるウクライナ侵攻はまだまだ収束の目処がつかず、中東でも新たな紛争が勃発、平和を望む世界の大多数の人々の想いとは違う方向に進んでいる現実を目のあたりにしています。

国内では急速に進む人口減少で人手不足が深刻になり、さらに、もはや地球温暖化でなく地球沸騰化といわれる環境問題もまったなしの状況になっています。こうした目の前の喫緊の課題に対して今取り組んでいかねば社会自体が健全な姿を失い、そこで生きている我々企業にも深刻な影響が出かねません。自らの企業のために事業を進め、収益を追求することが今後も重要であることに変わりありませんが、一方で企業活動の基盤となる社会を脅かす課題もこれを解決していかねばなりません。

この課題解決に大きな役割を期待されるのがデジタルの力であり、DXであります。デジタル庁は地方自治体

システムの標準化、マイナンバーカードの活用、デジタル田園都市国家構想の推進などに取り組み、経産省もDXレポートを掲げ、企業のDXによる改革を加速させています。そのための人材育成も急務ですが、劇的な環境変化の中、これまでの組織論や育成論だけでは通用しない時代に入っています。

このような時代の中、OISAには大分県内の優れた企業が結集、人材育成のための学校もあり、各委員会活動も充実、既に社会課題解決につながる事業を展開されています。個ではなく共に創造する共創というスタンスで共通の課題に取り組むことが必要な時代に入っている中で、OISAのようなつながりは今後さらに重要なものになっていきます。その力をさらに活かすためにも、今まで以上に情報共有の場を増やすことに取り組んでいきたいと考えています。企業間の連携を進めて単独では成しえない取組を社会課題の解決に向けて進めていければ、各企業の発展とともに大分県の発展、そこに暮らす人々の幸福＝ウェルビーイングの実現にもつながると考えます。是非、力を合わせていきましょう。

結びになりますが、日頃より県下の情報サービス産業の発展と協会活動に、ご支援ご協力を賜り、会員各社、関係機関、関連団体の皆様には、厚く御礼申し上げます。今年辰年です。『活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年』といわれています。2024年が皆様にとりまして、輝かしい実りある豊かな一年となる事をご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。ありがとうございました。



大分市副市長 佐藤耕三様



九州経済産業局地域経済情報政策課
デジタル経済室 室長 春口浩子様



大分県商工観光労働部 理事 高野信一様

特別講演会

演題 弱小チームからワールドカップで勝つまで

日時：2024年1月17日(水) 16:15～17:15

場所：ソレイユ 7階 アイリス

講師：^{おおの ひとし}大野 均 氏(東芝ブレイブルーパス東京アンバサダー・元ラグビー日本代表)

プロフィール

- 2004年5月16日：日本代表戦初出場 日本 vs 韓国
- 2007年、2011年、2015年：ラグビーワールドカップ日本代表メンバー
- 2020年：19年の現役生活を終えクラブの普及担当に就任
- 2021年：東芝ブレイブルーパス東京のクラブ公式アンバサダーとして活動中
- 日本代表キャップ：98キャップ(歴代最多) 公式戦通算出場：234試合



●ラグビーとの出会い

小学校から高校まで野球一筋でした。ラグビーを始めたのは、福島県郡山市にキャンパスがある日本大学工学部のラグビー部でした。大学でも野球を続けようと考えていましたが、ラグビー部の先輩たちは当時きつい・汚い・危険の3Kのスポーツと揶揄されていたラグビーを真剣に楽しんでいました。そんな姿に惹かれ始め、最も必要な根底の強さを大学のラグビー部で教わり、身につけることができました。私はこの弱小ラグビー部だからこそ、今の自分があると信じています。

●東芝ブレイブルーパス時代

大学生からラグビーを始めた私は、パスもキックも一番下手でしたが、自分なりに一生懸命チームに貢献しました。大学4年生の春に、福島県の選抜チームに選ばれ、選抜チームのコーチが面白い選手がいると私を紹介してくれ、現在の東芝ブレイブルーパス東京に誘っていただきました。通用する自信は全くありませんでしたが、断ったら後々必ず後悔すると感じ、入団することを決めました。入団してからもパスもキックも下手でしたが、常にチームのために体を張り、倒れても立ち上がり、走り続けました。その結果、ジャパンラグビートップリーグ優勝5回、日本選手権を3連覇。個人としても数々のタイトルを獲得することができました。

●日本代表時代、そして南アフリカ戦

日本代表として、2007年、2011年のワールドカップに出場し勝利を目指しましたが、1勝もできず苦い思いが残りました。2012年、34歳という年齢を迎えていた私は、体力的には自信がりましたが、新たなヘッドコーチが、私を選んでくれるのか、正直自信はありませんでした。しかし、新ヘッドコーチとなったエディー・



ジョーンズは私を再び日本代表へ招集してくれました。2015年イングランドで開催されたワールドカップで、我々日本代表は

優勝候補の南アフリカを破りました。

●努力の結果“歴史的なジャイアントキリング”

私達は、世界一厳しいと言われた練習を4年間積み重ねてきたことそれだけを自信に、この試合に臨みました。ラグビーは番狂わせ(ジャイアントキリング)が最も起こりにくいスポーツだと言われています。南アフリカ代表撃破を実現できたことで、不可能だと思っていることでも、自分の思いと努力次第で可能にすることができるということを、身を持って体験することができました。

●ラグビーワールドカップ2019 日本大会

日本中がラグビーというスポーツで興奮と感動に包まれました。2019年までの4年間で、今までにない経験を積み上げ、歴代最強の日本代表がそこにあり、ベスト8進出という快挙を成し遂げてくれました。

●ラグビーワールドカップ2023 フランス大会

惜しくも決勝トーナメントへの進出はなりませんでしたが、サモア代表に勇敢に立ち向かい勝利し、イングランド代表やアルゼンチン代表に対して最後まで勝利を予感させてくれる素晴らしい戦いを見せてくれました。4年後にはまた新しい景色を見せてくれることを期待しています。これからの日本ラグビーに注目していただき、そこから困難に立ち向かう勇気やチームワークの大切さを感じていただけたらと思います。

●引退後の決意

現役時代の座右の銘を『灰になってもまだ燃える』としていました。19年間走り続けた膝はもうボロボロになり、もはや走ることはできません。まさに灰になりました。それでもラグビーに代わる情熱を注げるものを見つけて、また燃やしていきたいと思います。今後の私の座右の銘は、『灰になっても、未燃物の部分がまだ燃える』です。皆さんもまわりの人や環境に感謝しつつ、覚悟を持って責任ある仕事に向き合い、情熱を注げる未燃物を探して、熱を感じながら、素晴らしい人生を送っていただけたらと思います。

(総務委員会)

2023年度 OISA 視察研修旅行

第1回視察先

日程：令和5年8月25日(金) 参加：10社 18名

LINKSPARK FUKUOKA

担当者よりデジタルトランスフォーメーション (DX) を推進するうえで重要なポイントや成功事例、課題等について説明を受けました。その後、音声や画像認識技術等を用いたデモを体験しました。



博多の食と文化の博物館

明太子工場やさまざまな展示物、体験コーナーから福岡・博多の「食」と「文化」を学びました。明太子の重さを当てる体験ゲーム等もあり、楽しみながら学べる施設でした。

第2回視察先

日程：令和6年1月26日(金) 参加：10社 18名

しものせき環境みらい館

山口県下関市の環境学習・環境保全活動の拠点「しものせき環境みらい館」にて、資源回収(ごみ分別)の説明を受けた後、リサイクル工場を見学しました。



北九州空港ターミナルビル

北九州空港の特色や発着便についての説明、搭乗時のチェックインや保安検査についての説明をいただき、3F屋上にて出発便や到着便を見学しました。



(企画委員会)

第29回 OISAボウリング大会開催

開催日：2023年11月22日(水) 場所：OBSボウル

11月22日(水)、OBSボウルにて、イベント委員会主催によるボウリング大会が25社34チーム136名の参加により盛大に開催されました。

今回は新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催となり、お陰様でほぼフルレーンで開催することができました。

競技は、1チーム4人で構成され、2ゲームのトータルスコアで団体戦と個人戦が競われました。

競技終了後は、場内ミーティングルームにて表彰式が行われ、表彰式では上位入賞者の表彰と賞品が授与されました。また、上位入賞者の記念撮影があり、和やかな雰囲気での大会を終了しました。

今大会は、団体戦では優勝候補の富士フィルムBI大分Aチームが、前回優勝チームの大銀コンピュータサービスAチームを抑えて優勝し、個人戦男子では石井国博さんがトータルスコア390点で、個人戦女子では薬師寺未妃さんがトータルスコア330点で優勝を勝ち取りました。

次回も皆様のご参加をお待ちしています。



ゲーム中の様子

団体戦の部

順位	チーム名	総得点
優勝	富士フィルムBI大分A	1,359点
準優勝	大銀コンピュータサービスA	1,318点
3位	富士フィルムBI大分B	1,143点
4位	オーイーシーB	1,138点
5位	NTT西日本大分支店	1,064点
6位	東芝デジタルエンジニアリングB	1,044点
7位	コンピュータ・エンジニアリング	1,012点
8位	KCS大分情報専門学校B	994点
9位	アーネットA	984点
10位	オーイーシーA	948点

個人戦の部

	氏名	総得点
男子優勝	石井 国博(富士フィルムBI大分A)	390点
女子優勝	薬師寺未妃(富士フィルムBI大分A)	330点



優勝チーム



準優勝チーム

(イベント委員会)

第30回 OISA研修の実施

～ご参加ありがとうございました～

皆さまのご協力により、11月に2件の研修を無事終了しました。

本研修はJISAの補助金を受けて開催しており、令和5年度研修で30回目を迎えました。事前にOISA会員の皆さまが関心のある研修を、研修委員会にて事前にアンケートを実施して、その回答結果を基に技術系、非技術系の以下の2件の研修を開催しました。

技術系の研修では、OISA会員でもある株式会社APC様よりAI関連(Python入門やデータベース設計、ネットワークの基礎など)の研修のご提案があり、同時に上記アンケートを行ったところ、「AIの概論とデータ分析」の研修に参加希望者が多かったことから開催決定しました。

非技術系の研修ではアンケートの結果、「アサーティブコミュニケーション研修」が人気であったことから、開催となりました。尚、2件の研修は昨年5月にコロナが5類になったことから、両研修とも従来通り集合研修で行いました。

AIの概論とデータ分析を体験する(1日コース)

開催日：2023年11月21日(火) 参加19名(9社)

本研修は、株式会社APC様が開発したEvangelistを使用した画像認識AIを活用して、研修前半でAI概論を学んだ後に、後半でデータサイエンティストやAIエンジニアを育成するためのリスキニング講座「AIミネルバExpert」の一部を体験してデータ分析基礎を学ぶためのコースを開催しました。最終的に19名の参加をいただき、盛況のうちに開催することができました。また各人毎にノートPCやイヤホンを持参して、研修委員会で準備したiPadを使用し、より実践的な研修が開催でき、参加者の気付きやスキルアップに繋がりました。

研修後の受講者アンケートでは、「機械学習についてどのような仕組みでAIに学習させているか知れてとても役立った」、「実際に簡単なAIのモデルを作成するデモやオンライン教材での学習を通じて、AIに対して興味が湧いた」というご意見をいただきました。

研修委員会では、これまで技術系の研修は費用面で開催が難しいテーマが多く、技術的・実践的な研修ができませんでしたが、今回は株式会社APC様のご協力により最新技術であるAIを分かりやすく丁寧にご説明いただき、研修が開催できましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。今後の参考にしたいと考えています。



リーダーのためのアサーティブコミュニケーション研修(1日コース)

開催日：2023年11月29日(水) 参加15名(10社)

リーダーの皆様には、相手を尊重しながらも、言いにくいことや言わなくてはならないことを伝える場面が多くあります。本研修は、上司やメンバー、他部署など、リーダーを取り巻く様々な関係者に対して、よい関係を保ちながら主張をするためのアサーティブなコミュニケーションスキルを学ぶことを目的としました。参加者15名/10社をできるだけ同じ会社の方が重ならないように3つのグループに分け、異なる会社様同士でグループ討議を行っていただきました。

受講者からは「アサーティブなコミュニケーションで何が足りないかを把握でき、明日から実践したいと思った」、「ロールプレイングが多く、実際に起こりそうなシーンを想定した実践形式のやり取りが印象深かった」という大変好意的なご意見をいただきました。

研修委員会は、非技術系のアンケートで人気のコミュニケーションやプロジェクトマネジメントなどの研修を今後も充実させていきたいと考えております。



(研修委員会)

第35回「OISA 技術交流会」開催

日時：2023年12月6日(水) 13:30~17:30 場所：オンライン (Zoom)

OISA 技術交流会は、大分県における情報サービス関連技術の向上と発展を促し、さらなる振興を図ることを目的に毎年開催されています。本年度も昨年度に引き続きオンラインでの開催となり、24団体84名のご参加をいただきました。

第1部では、業界の最新技術動向についての研究成果や、ノウハウを持つ講師による講演会、第2部では、大分大学からの「研究シーズ」の紹介に引き続き、会員各社の中堅・若手技術者が集った「技術研究会」の成果発表が行われました。



第1部 講演会

講演：オープンデータが地域を変える

講師：牛島 清豪 氏

デジタル庁オープンデータ伝道師として、地方公共団体におけるオープンデータ施策の啓発に取り組み、総務省地域情報化アドバイザーとして、データ利活用やDXの推進支援をされている牛島清豪氏をお招きして、オープンデータを活用した地域情報化について、様々なお話を伺いました。岩手県からの参加者から自治体への働きかけ方法についての質問があり、デジタル田園都市国家構想交付金の申請に絡めて、オープンデータ整備の必要性を説くアプローチが紹介されるなど、活発な質疑応答がなされました。



牛島 清豪 氏

第2部 技術研究会発表会

大学研究シーズ発表：異常検知技術の概要と応用事例の紹介

講師：賀川 経夫 氏

大分大学理工学部助教の賀川経夫氏より、異常検知技術の概略と深層学習による異常検知がなぜ難しいかを解説いただいた後、教師なし学習である再構成・再生成手法を用いた医用画像の異常検知事例や、深層距離学習を応用したベルトコンベア上の石灰岩分別の事例をご紹介いただきました。大分大学大学院工学研究科博士前期課程の中上輝一氏からは、パラメータを確率分布で表現することで不確実性が考慮できる手法であるベイズ深層学習を用いた、LSIの不良予測の取り組みについて、現在の研究状況のご説明が行われました。



賀川 経夫 氏

技術研究会 部会発表

・生成 AI 部会 A チーム研究発表「生成 AI を使用してどのくらいシステム開発ができるのか？」

アプリ開発に ChatGPT を使用してみて得られた知見が報告されました。タスク管理 Web アプリでコード生成をした例では、体感で2割程度のコードがそのまま使え、スケジュール管理 Web アプリで要件定義や設計に使用した例では、要件の抽出や画面・UI 設計、勤怠管理 C# アプリの例でも、狭い範囲で適切に指示を出せば的確なソースコードを生成、またテスト工程では、機能概要の説明をすることで必要なテストケースが生成されました。ChatGPT の出力をたたき台・ひな型として活用することでシステム開発作業の効率が図れました。



チーム A

・生成 AI 部会 B チーム研究発表「ChatGPT の力を解き放つ：利用用途と課題」

ChatGPT の概説、企業での導入実績や一般ユーザーの利用率の調査結果の紹介の後、利用用途と生成精度についての説明がありました。利用用途としては、具体的な質問をして相談相手のようにして利用するケース、長文の要約や文面・見出しの作成を行い作業の効率化に利用するケース、およびプログラムコードの生成に利用するケースが提示されました。最後に ChatGPT 利用のリスクとその対策について考察し、今後のアプリ開発やカスタマーサポート業務、教育分野や医療分野などへの応用について展望が示されました。



チーム B

・オープンデータ部会研究発表「オープンデータを使用した子育て支援サービス【ココイコ】」

大分県や大分市のオープンデータにどのようなものがあるかを調べた後、子供が楽しめる遊び場やイベントの情報を提供するアプリを、オープンデータを使用して実現することを想定し、概念実証を行った結果が発表されました。大分市の「おおいたマップ」や BODIK ODOS の「大分市写真」データセットなどが使えそうでした。課題としては、サービスとして想定したタイムライン機能とポイント獲得機能の実装ハードルが高そうなことと、企業・施設とユーザーをアプリ運営事務局がマッチングさせるリボン型ビジネスモデルを想定しているが、それを実際に成立させるための取り組みは当然ながら簡単ではなさそうなのが挙げられました。



オープンデータ部会

技術研究会の各部会とも、若いメンバーが企業の垣根を越えて交流し、日常の業務とは違った立場でテーマに取り組んだことは貴重な経験になったと思います。各メンバーがこの経験を自社に持ち帰り、今後の活躍の糧とされることを祈念します。

(技術委員会 http://www.oisa.jp/tech/ronbun_history.html)

第32回

サウンズコンテスト

日時：2024年1月27日(土) 13:30～17:00

会場：大分第2ソフィアプラザビル 第2ソフィアホール(2F)

ON THE COMPUTER



小野協会理事
あいさつ

今年で32回目を迎えたサウンズコンテストOn The Computerは、1月27日(土)に大分市のソフィアホールで開催されました。

今年は312曲のご応募をいただき、その中から厳選なる予選(オンライン審査方式を初導入)を通過したフリー曲部門18曲、トリニータ応援歌部門5曲の合計23曲で本審査を行いました。

今回は、予選通過者全員が県外からの応募者となりましたが、なんと半数近くである10組の方々が来場され、インタビューや授賞式、記念撮影などで大変盛り上がりしました。

また、今年もコンテストの様相をYouTubeのリアルタイムでライブ配信することができ、ライブ視聴者数は170名を

超え、当日来場できなかった応募者など、視聴者の方々にも大変喜んでいただきました。

審査結果については公式ホームページでも公開させていただき、当日ご来場いただけなかった受賞者には賞品と賞状をそれぞれお送りさせていただきました。

今年のグランプリに輝いたのは神奈川県のアミカ Yobuno 氏作品“Create”でした。

今回の作品は「日常生活で聞く環境音や生活音を混ぜたビートを作り、効果音的な役割をもたせた様々なボイス素材と、自分の持ち味であるアーバンなフレーズセンスを掛け合わせた作品です。心地よいグルーブが生み出すエキサイティングさや、抜け感とツヤのあるサウンドを感じていただければ幸いです。」とコメントをいただきました。

審査結果

賞	氏名	地区	タイトル
グランプリ	Amika Yobuno	神奈川県	Create
フリー曲部門 一般1位	大塚 考浩	千葉県	宣教航路
フリー曲部門 一般2位	眠りの精	福島県	あの日の面影
フリー曲部門 一般3位	BE	東京都	Frontier Adventure
フリー曲部門 学生1位	suzuri	愛知県	Listen to my heart
フリー曲部門 学生2位	小島 望実	滋賀県	Orch
フリー曲部門 学生3位	JAY	東京都	Life To You
トリニータ応援歌部門 最優秀賞	choma	兵庫県	走れ!トリニータ
審査員特別賞	chocotaro	北海道	Revival japan

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。どの曲も、J1復帰を目指す大分トリニータにふさわしい、今年の奮起を期待する気持ちのこもった楽曲が印象的でした。

その中で最優秀賞に輝いたのは、兵庫県のchomaさんの作品“走れ!トリニータ”でした。

この曲は、去る2月25日(日)のトリニータホームゲーム開幕戦前に贈呈式を行い、大分フットボールクラブへ贈呈されました。この曲は、向こう一年間、大分スポーツ公園総合競技場(レゾナックドーム)で開催される大分トリニータのホームゲームのBGMとして使われることになっています。

観戦に行かれる方は、試合前に流される音楽にも是非ご注目ください。



参加者記念撮影

審査委員

	氏名	審査歴	備考
審査委員長	田村 洋彦	28回目	大分大学名誉教授(音楽科)・東アジア作曲家協会顧問
審査委員	渡邊 裕美	4回目	電子音響音楽作曲家
審査委員	松宮 圭太	2回目	大分県立芸術文化短期大学 音楽科(作曲)講師
審査委員	眞名井 龍一	9回目	大分県情報サービス産業協会 事務局長

最後に、応募曲の編集、映像の編集、会場設営等で大変ご苦勞をおかけした日本文理大学関係者様、また、今回も多くの後援・協賛をいただきました各社様にも紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(イベント委員会)

社会貢献活動参加



2024年2月4日(日) 第72回別府大分毎日マラソン大会が行われ、4,400人の選手たちがその健脚を競いました。

今回は海外招待選手が前半で脱落するなど、予想外の展開となる中、37kmの終盤で下田選手が仕掛けてトップに立つも、すぐさまワークナーデレセ選手がスパートをかけ下田選手を抜きさり、そのまま一位でゴール。また、視覚障がい者男子の部では、和田選手に世界記録がでるなど、見どころの多いレース結果となりました。

当協会からの給水ボランティア参加も今回で12回目となり、23社134名が参加し別府中央浄水場(11km)、観光港フェリー入口(13.5km)、OBS(41km)の3箇所の給水ポイントを担当し、選手への給水サポートと応援で大いに貢献しました。

今後とも多くの方のご参加を、よろしくお願いたします。



(総務委員会)

新任役員紹介挨拶



新会長 かとう たけし
加藤 健

【所属・役職】 株式会社オーイーシー 代表取締役社長

【略 歴】 1954年7月 大分県大分市生まれ
1981年7月 株式会社オーイーシー入社
2006年6月 取締役管理部長
2013年6月 代表取締役社長 現職

【趣 味】 テニス、美術品鑑賞・収集

【ご挨拶】 地元大分の皆様と共に力を合わせて各企業様の発展と共に大分県の発展、そこに暮らす人々の幸福の実現に貢献できればと考えております。何卒よろしくお願いたします。



新理事 はなだ りきぞう
花田 力三

【所属・役職】 大銀コンピュータサービス株式会社 代表取締役社長

【略 歴】 1964年 福岡県宗像市生まれ
1987年 株式会社大分銀行 入行
2023年 株式会社大分銀行 退職
2023年 大銀コンピュータサービス株式会社 入社・現職

【趣 味】 野球

【ご挨拶】 皆様とのご縁を大切に、大分県情報サービス産業協会ならびに業界の発展に微力ながら尽力してまいり所存です。何卒よろしくお願いたします。

OISA NEWSは協会Web
サイトでも読
むことができ
ます。



当協会も後援団体として協力しております第19回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2023より大分県内の優秀賞が発表されました。QRコードよりアクセスできますのでぜひご確認ください。
(<https://www.ipa.go.jp/security/hyogo/2023/sakuhin/oita.html>)

